

仕事の態度と価値観についての調査研究

－中国社会人を対象に－¹⁾

A Research on the Attitude and Value of Labor － With Special Emphasis on Chinese Adults －

李 艶
Li Yan

要 約

中国における20歳代の社会人205名、40歳代の社会人189名を対象に調査を実施した。調査の項目はMOW国際研究チームによって作成された尺度を参考にして、質問紙を開発した。その結果、20歳代の社会人は「仕事上の倫理」の強度は40歳代の人より弱いことがわかった。「達成動機」の尺度では年齢差に有意義性が見られなかった。「なぜ仕事をするか」の尺度では、20歳代の社会人は「利益」「経済」「勉強のチャンス」「興味」「地位」を重視したが、40歳代の人には「家族生計の維持」「安全保障」「社会への貢献」をより重視することを明らかにした。これらは各年代の社会、経済、家庭などの事情によるものと考えられる。「人生はどうあるべきか」の尺度について、この二つの年代の人たちは「仕事をする」「レジャーを楽しむ」「家庭のために責任を果たす」点では、得点が高かった。「老後の準備」について、40歳代の人には20歳代の人より得点が有意に高かった、これは40歳代の人の特徴を表す。

Key Words : 仕事の態度と価値観, 達成動機, 仕事上の倫理, 競争

はじめに

価値は、パーソナリティーの構成要素と考えられ、何に価値を見出すかは、個人、年齢によってずいぶん異なる。態度は価値と深い関係があり、個人の行動を決定する直接的要因と考えられる。価値は態度を支える信念と位置づ

けられるため（大山，1990），価値及び価値観もまた，態度を媒介として人々の行動に影響を及ぼすと考えられる。仕事の価値観は仕事の態度を媒介として，人々の仕事に直接的に影響を与えると考えられる。

Spence & Helmreich（1983）は仕事への価値観には多数の動機があると主張した。彼女らは「仕事と家族への志向に関する質問紙（WFOQ：Work and Family Orientation Questionnaire）から動機づけを測定した。このWFOQの測定結果を因子分析し，仕事上の倫理（Work ethic），熟達性（Mastery），競争（Competitiveness）の3つの因子を抽出した。Yamauchi & Li（1993）は日中両国の大学生を対象に達成動機の関連と仕事に対する態度の比較文化研究を行った。その結果，中国の大学生は「熟達」，「競争」，「貯蓄」，「達成動機」，「適合的達成」で日本の大学生より得点が高かった。また，中国の大学生は男女とも競争は金銭と無関係で，よりよい仕事の業績を上げるためであった。その後，李（1993）は日中両国の社会人を対象に仕事の価値観について，比較文化的研究を行った。その結果，中国の社会人は，「自立と独立」，「尊重されること」，「職場の状況」，「能力と知識」，「責任性」を比較的重要であると思っていることがわかった。

本研究は，90年代初めの中国における経済改革の激しい時代から現在の中国の社会人を対象に，中国人の仕事に対する態度と仕事の価値観を調査研究することを目的とする。

方 法

被験者：中国20歳代の社会人205人，40歳代の社会人189人を対象に調査を実施した。

調査項目：Spence & Helmreich（1983）が作成した「仕事と家族への志向に関する尺度」，Yamauchi & Templer（1982）の「貯蓄」尺度，Elizur（1984）の「仕事の価値観に関するアンケート」，MOW（1987）国際研究チームによって作られた「仕事に関する価値と信念」尺度を参考にした上で，李（1997，未発表）が作成した「仕事に関する態度・価値観，社会人の人生観のアンケ

ート」を利用した。各尺度は以下のようにになっている(質問項目は付録に掲載)。

仕事上の倫理：この尺度は一生懸命に仕事をしたいという欲求や、できるだけ良い成績を上げたいという努力を測定するものである。回答方法は「非常にあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの5段階評価である。具体的な項目の一例を挙げれば、「私にとって、一生懸命に仕事をするのは非常に重要である」。

達成動機：この尺度は達成動機を測定するものである。回答方法は「非常にあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの5段階評価である。具体的な項目の一例を挙げれば、「気楽に過ごすより仕事で出世する方がよい」。

競争：この尺度は競争意欲を測定するものである。回答方法は「非常にあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの5段階評価である。具体的な項目の一例を挙げれば、「私は他人と競争する状況のもとで働くのが楽しいし、有能感も感じる」。

貯蓄：この尺度は未来への貯蓄の関心及び貯蓄する方法を測定するものである。回答方法は「非常にあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの5段階評価である。具体的な項目の一例を挙げれば、「私は自分のお金については将来の計画をもっている」。

熟達：この尺度は仕事を熟達したい動機を測定するものである。回答方法は「非常にあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの5段階評価である。具体的な項目の一例を挙げれば、「私は高い水準の技能を要するところで仕事をするのが好きだ」。

仕事の目的：このアンケートはなぜ仕事をするかについて測定するものである。回答方法は「非常にあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの5段階評価である。具体的な項目の一例を挙げれば、「仕事は私にとって再勉強のチャンスでもある」。

仕事または再就職するときに重視すること：このアンケートは仕事の価値観に関して、どの程度に重要と感じているかを測定するもので、14項目で構

成されている。回答方法は「非常に重要である」から「まったく重要でない」までの5段階評価である。具体的な項目の一例を挙げれば、「仕事のやりがい」。

仕事を成功させるための方法：このアンケートはどのように仕事を成功させるかについて調査するものである。回答方法は「非常にあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの5段階評価である。具体的な項目の一例を挙げれば、「自分自身を高める」。

失敗の対処の仕方：このアンケートは仕事の失敗の対処を調べるものである。回答方法は「非常にあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの5段階評価である。具体的な項目の一例を挙げれば、「失敗の原因を探す」。

人生においてすべきこと：このアンケートは人生観を測定するものである。回答方法は「非常に重要である」から「まったく重要でない」までの5段階評価である。具体的な項目の一例を挙げれば、「家族への責任」「宗教活動」などである。

結果と考察

表1は20歳代と40歳代の社会人の仕事に対する態度、価値、人生観についての平均、標準偏差、t検定結果及び各尺度における α 係数を示した。

20歳代と40歳代の各尺度の平均得点の差を検定した結果、40歳代は「仕事上の倫理」「失敗の対処の仕方」「人生においてすべきこと」で、20歳代より得点が有意に高かった。これは40歳代の人是一生懸命に仕事をしたい意欲、できるだけ良い成果を挙げたい気持ちが20歳代より強いことを意味する。「達成動機」「競争」「再就職するとき」で20歳代は40歳代より得点が有意に高かった。これは20歳代の社会人は競争意欲が強い、再就職のチャンスが多いため、目標の達成意欲も強いことを意味する。

表2は両年代の社会人の仕事に対する態度、価値、人生観などの尺度間の相関を示した。

両年代とも、共通しているところは「仕事を成功させるための方法」では「達成動機」「競争」「貯蓄」「熟達」「仕事の目的」「再就職」「仕事上の倫理」

表1 社会人の仕事に対する態度, 仕事の価値観, 人生観について平均(M), 標準偏差(SD), t-検定の結果

尺度	α 係数		M (SD)		t-検定
	20歳代 (N=205)	40歳代 (N=189)	20歳代 (N=205)	40歳代 (N=189)	
仕事上の倫理	.73	.63	23.27 (9.01)	28.15 (8.98)	4.38**
達成動機	.84	.81	41.29 (10.02)	30.87 (6.67)	2.03*
競争	.83	.82	23.83 (10.11)	19.78 (8.13)	4.58**
貯蓄	.81	.77	26.72 (8.20)	32.08 (7.16)	4.17**
熟達	.75	.70	26.64 (6.14)	24.98 (8.17)	1.03
仕事目的	.80	.74	32.46 (8.17)	32.32 (6.75)	1.05
再就職	.78	.88	56.65 (11.31)	50.17 (13.17)	2.65**
成功する方法	.85	.82	22.16 (4.67)	23.22 (3.98)	1.11
失敗対処	.80	.79	12.11 (4.25)	12.69 (3.98)	1.19*
人生観	.72	.67	22.77 (9.26)	32.54 (7.16)	5.63**

* P<.05 **P<.01

表2 20歳代と40歳代社会人の各下位尺度間の相関

	WE	AM	C	S	M	WO	RF	HW	WF	WL
仕事上倫理 (WE)										
達成動機 (AM)	(20) .87									
競争 (C)	(20) .36	.59								
貯蓄 (S)	(20) .32	.36	.46							
熟達 (M)	(20) .37	.41	.39	.39						
仕事目的 (WO)	(20) .41	.53	.40	.30	.30					
再就職 (RF)	(20) .47	.52	.40	.47	.34	.36				
成功方法 (HW)	(20) .46	.42	.40	.38	.34	.61	.40			
失敗対処 (WF)	(20) .32	.33		.45	.32	.36	.40	.40		
人生観 (WL)	(20) .48	.39	.31	.50	.38	.61	.34	.40		
	(20) .37	.36	.40	.36	.39	.30	.40			
	(20) .30	.30	.37	.34	.40	.34	.40			
	(20)		.30							
	(20)	.30				.31				
	(20)	.31	.30			.33				
	(20)	.37	.32			.30				

注：(20) は20歳代, (40) は40歳代を意味する。0.30以下の数字を省略した。

と相関があり、「人生観」は「競争」「貯蓄」「再就職」と関係があり、「再就職」は「仕事上の倫理」「達成動機」「貯蓄」「熟達」と関係があるということである。違っているのは20歳代の社会人は「失敗」と「競争」の間に関係が見られた。一方、40歳代は「失敗」と「達成動機」「仕事の目的」とに関係があった。

以上の結果から、両年代とも仕事をうまくするためには達成動機の高低、競争意欲の高低、貯蓄、仕事に熟達すること、再就職にあたっての態度、仕事上の倫理などが関係していることがわかった。また、20歳代にとっては、競争と失敗するときの対応がつながっており、40歳代は失敗の対応が達成動機及び仕事の目的と関連があることがわかった。

各尺度の質問に対してバリマックス回転による因子分析を行った。

表3は両年代の社会人のそれぞれの尺度で抽出された因子をまとめた。

「仕事上の倫理」では両年代とも、「満足感」と「幸福感」の2つの因子が見られた。これはよく仕事をすることは満足感、幸福を得ることを意味する。「達成動機」については、2つの年代には「努力」「目標を立てる」の2つの因子があった。これは達成目標の実現は努力すること、しっかりした目標を立てることを意味する。「競争」では、20歳代は「有能さ」「勝つ」「よりよくする」で、40歳代は「よりよくする」「勝つ」であった。両年代の人々にとって、競争は他人よりよくできること、自分の強さを勝つという結果で示すことを意味した。「貯蓄」では20歳代は「好きなことのため（目的）」、「仕事をする（方法）」で、40歳代は「未来、老後のため（目的）」、「仕事、節約（方法）」であった。これは、年齢、経済の将来性などから、20歳代の人はいたいことのために、仕事をして貯蓄するが、一方、40歳代の人はいは将来のために仕事をするが、節約して貯蓄することを意味した。「熟達」では、20歳代は「チャレンジ」「よく仕事をする」、40歳代の人はい「仕事をする」であった。これは、20歳代の人においては、挑戦意欲は仕事の熟達に関連深いことを意味した。「仕事の目的」では、20歳代の人はい「利益、経済」「興味、勉強」「地位」「家族」で、40歳代の人はい「利益、経済家庭」「興味、勉強」「社会貢献」であった。これは、何のために仕事をするかについて、両年代の人々

表3 20歳代と40歳代の社会人の各価値観尺度の因子

各尺度		20歳代	40歳代
仕事上倫理	因子 I	満足感	満足感
	因子 II	幸福感	幸福感
達成動機	因子 I	よく仕事をする	よく仕事をする
	因子 II	計画をする	計画をする
競争	因子 I	勝為に努力する	努力する
	因子 II	有能感を感じる	
貯蓄	因子 I	やりたいことに	将来, 老後に
	因子 II	仕事方法で	仕事, 節約方法
熟達	因子 I	チャレンジする	仕事をする
	因子 II	仕事に頑張る	
仕事目的	因子 I	利益, 経済	利益, 経済, 家庭
	因子 II	趣味, 勉強	安全保障
	因子 III	地位	趣味, 勉強
	因子 IV	家族	社会貢献
再就職	因子 I	仕事の内容	給料, 厚生
	因子 II	昇進, 影響力	安全保障
	因子 III	同僚, 上司	労働条件
	因子 IV	給料	
成功方法	因子 I	学習する	学習する
	因子 II	自分を高める	自分を高める
失敗対処	因子 I	転職	失敗の原因を探す
	因子 II	原因を探す	転職
人生観	因子 I	仕事	仕事
	因子 II	社会貢献	社会貢献
	因子 III	知識	家庭責任
	因子 IV	レジャ, 旅行	老後準備
	因子 V	友達づくり	豊かな生活

の特徴をよく示した。「再就職するとき」では、20歳代の方は「仕事の内容」「昇進、影響力」「同僚、上司」「給料」で、40歳代の方は「給料、厚生」「安全保障」「労働条件」であった。これは、40歳代の方が現実性を示した。給料、年金保障ではこの年代の人にとってもっとも重要なことであることを意味した。「どのように仕事をするか」では両年代とも「学習する」「自分を高める」であった。「失敗するとき」では20歳代の方は「転職」「原因を探す」で、40歳代の方では「原因を探す」であった。これは、両年代の人々の失敗する

ときの態度を表した。前者は失敗の原因を探すより、転職傾向が強い、後者はその逆の傾向であった。「人生観」では20歳代は「仕事」「社会貢献」「知識」「レジャー」「友達づくり」「豊かな生活」で、40歳代は「仕事」「社会貢献」「家族責任」「老後の準備」「豊かな生活」であった。広い意味の人生観では、社会のために貢献すること、仕事をする事、豊かな生活を実現することは、両年代とも共通となっているが、レジャー、旅行、友達づくりは20歳代の人の特徴であり、家族に責任を果たすこと、老後の準備は40歳代の人の特徴だと言える。

引用文献

- Elizur, D. 1984 Facets of work values: A structural analysis of work outcomes. *Journal of Applied Psychology*, **69**, 379-389.
- 李艶. 1992 仕事の価値観の交差文化的研究
富士ゼロックス 小林節太郎記念基金研究助成論文
- MOW Meaning of Work International Research Team.
1987 *The meaning of working*. London Academic Press. **73**, 755-767.
- Spence, J.T. & Helmreich, R.L. 1983 Achievement-related motives and behaviors. In J. T. Spence(Ed.), *Achievement and Achievement Motives: Psychological and Approaches*.
San Francisco: Freeman. pp. 7-74.
- Yamauchi, K.T., & Templar, D.I. 1982 The Development of a money attitude scale. *Journal of Personality Assessment*, **46**, 522-528.
- Yamauchi, H., & Li, Y. 1993 Achievement-related motives and work-related attitudes of Japanese and Chinese students.
Psychology Reports, **73**, 755-767.

付録

仕事に対する態度・価値観、人生観についてのアンケート

仕事上の倫理：

1. 私にとって、一生懸命に仕事をするのはとても重要である。
2. 仕事は私に満足感を与える。
3. 仕事がうまく出来たとき、とても幸せである。
4. 他の人に比べれば、仕事はまだ十分出来ていないが、以前より成績が上がっていれば、私はそれで満足である。
5. 私の幸せの一つは仕事がよくできることである。
6. 仕事をしない人生はつまらないものである。

達成動機：

1. 気楽に過ごすより仕事で出世する方がよい。
2. 仕事において、他の人達ほどうまくできないときとても不安である。
3. 精一杯に仕事をし成功させるタイプである。
4. 気が合うけれども能力がない人より、気難しいけれども有能な人を仕事のパートナーとして選びたい。
5. 人生の目標を実現するために、いろいろな計画を立てた。
6. 私にとって人生が常に向上していることが大事である。
7. 私は夢をいっぱいもっている。
8. 他人の成功を見守るより、自分が成功することが重要である。
9. 目標を実現するためにコツコツ努力する。
10. きちんと計画を立てないまま、ただ日々の流れに任せて生きていくことはできない。

競争：

1. 私は他の人と競争する状況のもとで働くのが楽しいし、有能感を感じる。
2. 他の人より課題をうまく遂行することは気持ちのいいものであり、私にとって、とても大事である。
3. 何でも努力して、勝つのは大事だと思う。

4. 他の人が私よりよくできるととても気分が悪くなり、いらいらしてしまう。
5. 他の人と競争するときには、とくに頑張る。

貯蓄：

1. 私は自分のお金については将来の計画をもっている。
2. 私は将来のためにお金を残しておく。
3. 私は老後のために貯蓄する。
4. 私はやりたいこと（何でも結構）のために貯蓄する。
5. 仕事をたくさんしてお金を貯める。
6. 仕事をする方法以外に節約をする。
7. 私はよく考えて経済生活を送っている。

熟達：

1. 私は高い水準の技能を要するところで仕事をするのが好きだ。
2. チャレンジ精神はとても大事だ。
3. いつもいろいろなことをして、忙しくしているのが好きだ。
4. 私は一旦やり始めると、最後までやり抜き通す。
5. 私は何かをうまくできないときには、あきらめてすぐできそうなものに移るより、できるそのことで頑張り続けたい。
6. 仕事は熟達するまで頑張るのが大事だ。
7. 私は自分の所属グループが何かの計画をたてる時、積極的に提案を出すことが大事だと考えている。
8. 私は骨の折れる難しい仕事をやるのが好きだ。

仕事の目的：

1. 仕事は私にとって再勉強のチャンスでもある。
2. 仕事は私にとって新たな人間関係を作る場である。
3. 仕事を通して私は成長し、また社会的地位を得ることができる。
4. 仕事を通して、利益を得ることが出来る。
5. 仕事は私にとって、新たな興味を引き起こすことができる。

6. 仕事は安全, 保障を得ることが出来る。
7. 仕事は自分の能力を活かせる。
8. 仕事は生計を維持するための経済基盤が作れる。
9. 仕事は社会に貢献することができる。
10. 仕事は家族のために仕事をする。

仕事または再就職するときに重視すること：

1. 仕事のやりがい。
2. 仕事の同僚。
3. 昇進昇級の可能性。
4. 給料。
5. 組織中の影響力。
6. 職場の環境。
7. 業務時間。
8. 将来性。
9. 各種の保障。
10. 福利厚生。
11. 職業の安定性。
12. 自分の受けた教育を活かせるかどうか。
13. 上司, 社員の質。
14. 転職出来るかどうか。

仕事を成功させるための方法：

1. 自分自身を高める。
2. 有能な人から学ぶ。
3. 研修などを有効に利用する。
4. 仕事をする前に良く研究をする。
5. 必要な文献と資料を集める。

失敗の対処の仕方：

1. 失敗の原因を探す。

2. 自暴自棄になる。
3. 転職する。
4. 上司の指導が悪いと思う。
5. 不利な仕事環境のせいにする。

人生においてすべきこと：

1. 仕事。
2. 社会貢献。
3. 家族への責任。
4. 宗教活動。
5. 社会的地位を得る。
6. 知識を得る。
7. 老後の準備。
8. レジャー旅行。
9. 幸せな家庭づくり。
9. 友達づくり。
10. 健康づくり。
11. 豊かな生活を実現する。

付 記

本稿は平成17年度私立大学等経常費補助金（私立大学教育研究高度化推進特別補助）学術研究推進特別経費共同研究経費の助成による研究成果の一部である。